

ぼくは、金矢拳さんと作文を書いた人、

どちらにも「勇気」が、たと思います。

金矢拳さんは一度、悪い道を歩んでしまっ

けど、保言彦さんや親見の力もあり、

もう一度さそおれた時は、勇気を出して

ごとおるごとかできました。しかし、ぼくか

もっとも印象に残ったのは、作文を書い

た人の勇気です。「ぼくがいじめられる

かもしれない…」などと思ひ、心の中

で、「す」ともねもねをかかえていたかも

し木ません。父のとつせんの死から、

二度と命はもとどてこないということも

実感した主人公は、「死ぬ」「消える」な

どという、たまに聞く言葉の重さを、知

たのだと思います。主人公のつらか

た出来事に、しっかり共感して、

いじめをしている人がいたら、声をかけたいと思ひま

八幡小学校6年係組

まず、鉄拳さんのパラパラマンガを見て、一度悪い道に進んでも親や保護司や地域の人がいれば立ち直り新しい正しい道に進めることも知れたし、一番は親の大セカさについて改めて知れました。次に、作文コンテストをもとにしたドラマでは、いじめをしている人、されている人、見ている人もそれぞれ思いがあって、死の重さ、命の大セカさを、まえて、自分から言えたと思います。ぼくは、自分から言うことができなかったけど、ひとつひとつの言葉の重みを通してこれから自分から言えるようにしたいです。この2つのことから、言葉は一言一言で人を上げまし、人を傷つけ、人をとろこせたり良い面もあれば悪い面もあります。これからは、一言一言気を付けていきたいです。

八幡小学校 6年1組

まず鉄拳さんのパラパラを見て、犯罪行為がある悪い道を進んでいたのが保護司さん母の言葉より新しい道に進み様子を見て、回数はまだ道は正しいとは思いますが、劇力が絶対必要なのかわりました。そして何が分かったうえで見た假面ライダーはただのドラマ。主人公のときの変態ある拓海自分周りが消える、死ぬ、爆言はされているに気づきそれに対してのレスもアクションも大げさな子と同じような爆言は、同じ女のように思えます。そして初景姐妹、昔は父言葉も思い出さず、かなうと思えば、それだけ自分がある体験も思い出した幼稚園のとき同じような子があるに気がしてきました。しかしそれはそれだけで、まはがたれ人と責めがきかして、そしていま幼稚園の非難、絡み、いじめの被害の重さをどういかにたれが簡単に背けるのか、一度と帰てな、いじめのとき、いじめた子に理由はない、それだけ大人も責め、それはお子の中に深刻はない、今後の人生大に影響するのではなかったと思わされたの、僕も自分学、これは社会知能の始めに自分法を習得して、共に思いました。

八幡小学校 6年1組